Dramatic criticism/ 劇評

グレーを基調に、いくつかの色の布が縦にさげられた背景の前に、円筒形の台がいくつかと、ストリングラフィが置かれているだけのシンプルな舞台。そこに、自然体で登場した三人の役者が、観客の子どもに「音」のイメージについて問いかける。

そんな、日常の遊びの延長のような時間が、一転真剣な表情になった役者たちの言葉の積み重なりから作り上げられるリズムとハーモニーによって、一気に芝居の空間となる・・・。

役者の声もまるで一つの楽器のように、そして楽器の音もまるでセリフのように扱って表現していて、高い芸術性を感じさせられた。

原作は、工藤直子の絵本であるが、物語に内包されている様々なもの、それは単なる友情物語でもない、生きることの意味や命の重さ、生きることの不条理をも十分に感じさせ、描いていた。そのような深みを感じさせる舞台を作り上げているのは、役者一人ひとりの研ぎ澄まされた感性であろう。

観客である子どもたちに真摯に向き合う時、その芸術としての光は大人向けの舞台に負けない、いや、むしろ違う形で輝くということを改めて感じさせられた舞台であった。

社団法人日本児童演劇協会発行「児童演劇」蒔田敏雄著　より

Impression/ 感想

●おもしろかった～おもしろかった～でも、かなしかった～。(小1)

●わたしのかんそうは、なんにも森になかったけど、さる・かなぶん・かぶととかいろいろな生きものやどうぶつが見えたのがよかったです。(小2)

●よーく話を聞いていると、自分もいつの間にかその場に行って、本当に自分の目で見たようになり、ランの気持ちが心にひびきました。(小4)

●命や友達の大切さについて考えらせられました。今まで見てきた劇の中で一番良かったです。心にじ～んとくる、優しくてせつない物語でした。(小6)

●命について考えさせられ、少しうるんでしまいました。少し深いなと思いました。(13才)

●大変良かった。たった三人で構成するドラマ。まさに100人のドラマであった。(17才)

●本当の本当に感動しました！劇を見て泣いたのは初めてです凵(18才)

●簡単な楽器と人の声でこんなに感動する劇がつくれる事に、とても驚きました。(おとな)

●子どもも大人も息をころして観ていました。生命の重さを皆しっかり受けとめたと思います。(おとな)

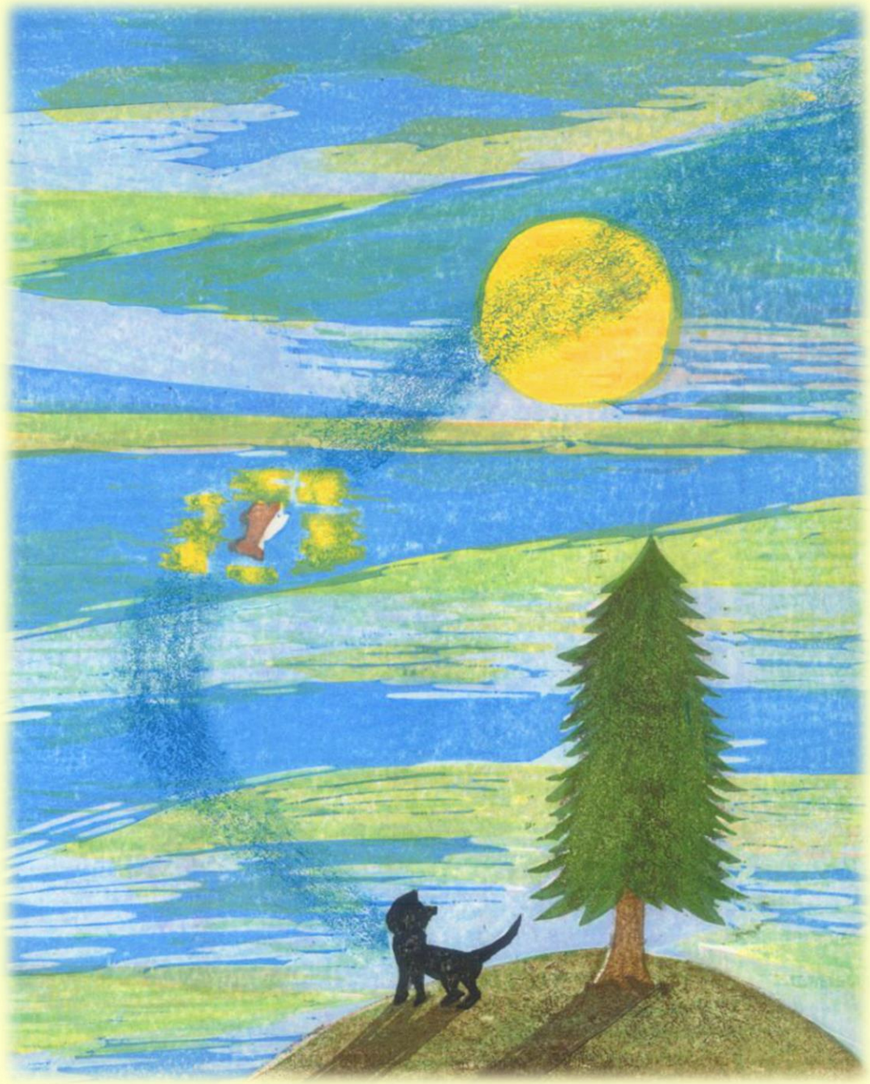
アートインAsibinaは2004年に、芸術による社会貢献を目指すNPO(特定非営利活動)法人として設立されました。主として児童青少年を対象とする舞台芸術作品の創造と上演を柱に、地域や学校などへの芸術体験プログラムの提供や、国際交流などの事業に取り組んでいます。

演劇の上演や各種のワークショップ、講座、講師派遣などなど、お気軽にお問合せ下さい。

NPO法人アートイン Asibina
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-18-20 ルックハイツ新宿803号
TEL. 03-6403-5158／FAX. 03-6893-3931
E-mail. info@asibina.com／URL. http://www.asibina.com/

ねこはしる

原作：工藤直子　構成演出：西田豊子



厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財
東京都優秀児童演劇選定優秀賞

●特定非営利活動法人アートインAsibina（あしびなー）●

←ねこはしるダイジェストビデオはこちらから